

一般質問

学校給食費の公会計化について



深田 照明 議員
(21政会・加西ともに育つ会)

問 給食費徴収の現状は。

答 学校給食費は、PTA 地区委員の方が町内の家庭を1軒1軒訪問してお金を預かり、それをまとめて学校指定の給食会計口座に入金していただいています。担当教職員はその入金を確認後、教職員分の給食費を合わせた全額を加西市給食センター指定の預金口座に振り込んでいます。

問 現状の給食費徴収方法のメリット・デメリットは。

答 メリットは、保護者の顔が見える形で集金するため、100%の集金を見込むことができます。デメリットは、PTA 役員の方や保護者、教職員等がお金を扱う手間や負担が大きいことです。

問 加西市の公会計化のスケジュールは。

答 公会計化とは学校給食費を地方公共団体の会計に組み入れ、学校で行っている徴収事務などを地方公共団体が実施することで保護者や教職員の負担軽減を図る取組です。文部科学省のガイドラインでは2年の準備期間を想定しているため、加西市でも準備期間を2年として令和5年4月運用開始としています。準備作業は、給食管理システムの購入、児童・生徒のデータ入力、金融機関等との調整、保護者への周知、財務会

計規則等の整備、担当職員の配置等を考えています。ただし、令和3年度は給食管理システムの購入予算を計上していないため、準備作業の大半は来年度になります。

要望 公会計化の早期開始を要望いたします。また、今は給食の米飯やパンの加工代金を加西市が半額補助していますが、その増額や第3子から無償化をする給食費一部無償化、そして将来的には全ての児童の給食費完全無償化も真剣に検討していただくことを要望いたします。

■その他の質問項目

- ・ 県道高砂加古川加西線の道路整備について
- ・ 国道372号線バイパスなど道路整備の進捗について
- ・ 鷯野飛行場周辺道路の安全対策について

ケアラー・ヤングケアラー支援について



丸岡 弘満 議員
(自由民主党・無所属の会)

問 ケアラーの実態調査を行って現状を把握しているのか。

答 (健康福祉部) 市独自で実態調査を行ってはいませんが、4月に県が関係機関を対象にアンケートを実施し、現在集計中です。加西市では、介護のために退職される方もありますが、経済的に困難な状況に陥ったり、ひきこもりや鬱状態になった方は、現状では把握していません。(教育委員会) 学校では教職員による日常的な観察や情報を得やすい関係づくりに努め、さらに、ス

クールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)が相談業務や日常観察等に従事し、専門的立場から支援できるようにしています。現在ヤングケアラーとして対応している案件はありません。

問 今後の支援の在り方を問う。

答 (健康福祉部) 連携会議などのネットワークを活用し、より一層細やかな情報共有に努め、現状を把握したいと考えます。ケアラーが独りで問題を抱えて社会と断絶される状態にならないよう、広く市民にケアラーの存在を周知し、近所の方に相談できる雰囲気づくりに取り組むと同時に、適切な公的サービスを提供して家庭の負担を軽減するよう支援していきたいと考えます。(教育委員会) 福祉部局と連携し

た悩み相談の窓口を設置し、周知を図るとともに、今年度1名増員で2名となったSSWが十分機能するように、教職員との情報交換や連携を推進します。また、国は2022年から2024年の3年をヤングケアラー認知度向上の集中取組期間と位置づけており、加西市もまず子供達の実態把握を最重要視しながら、各関係機関との連携強化に努めたいと考えます。

意見 数年前に市内の団体が「障がい者の兄弟姉妹や本人の支援について考えるフォーラム」を開催され、兵庫教育大学学校教育学研究「過剰な家庭内役割を担う中学生」という論文も発表されていることから、支援が必要であつても表面化しにくい実態があり、子供らしい暮らしができずにつらい思いをしているヤングケアラーを救っていく必要がある。